

抗がん剤による心毒性抑制剤

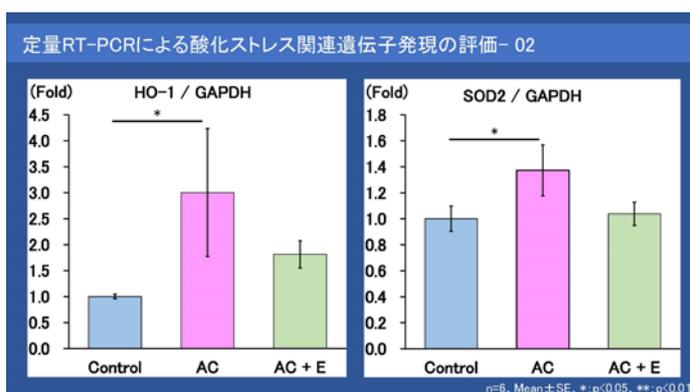
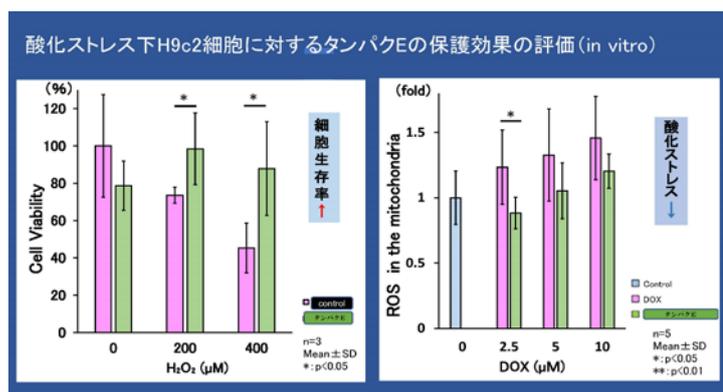
保健学研究科 検査技術科学 教授 廣畑 聡

心毒性、抗がん剤、副作用抑制、酸化ストレス抑制、オートファジー、心臓保護作用

保有技術

がん治療目的で抗がん剤が患者に投与されるが、心膜炎、心電図異常のような可逆的な心臓障害や心筋症のような不可逆的な心臓障害、つまり、心毒性が惹起されることが問題視されている。アントラサイクリン系薬剤の場合、累積投与量依存的に心筋症 (eg. アドリアマイシン心筋症) やトラスツズマブ (商品名: ハーセプチン (HER)) との併用による心毒性の増悪が見られることから、アントラサイクリン系薬剤は器質的に不可逆的な心臓障害を惹起する可能性が高く、臨床的にその心毒性を抑える手段が鶴首されている。本技術は、生体内 **タンパクE** (仮称) を用いてこのような要請に答える技術である。

タンパクEは抗がん剤による酸化ストレスを低減する



タンパクEのその他の作用

抗がん剤により過剰増加したオートファジー関連遺伝子 (Bnip3, Atg5) の発現を正常なレベルに戻す
→ オートファジー細胞死による心毒性を抑制する

特許情報

出願済 (未公開)

共同研究先への要望

企業様との共同研究を求めています。

岡山大学 研究推進機構 産学連携・知的財産本部

担当知的財産プロデューサー: 長佐古 治

Tel: 086-251-8472 E-mail: sangaku@okayama-u.ac.jp

http://www.orpc.okayama-u.ac.jp/

